新潟市潟環境研究所シンポジウム

日時

2019年 2月10日(日) 13:30~16:30(受付12:30~)

会 場

新潟国際情報大学中央キャンパス 9階講堂

(新潟市中央区上大川前通 7-1169) ※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込

定員/先着180名 入場無料 新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へ お申込みください

※申込開始1月10日(木)受付時間8:00~21:00年中無休

参加者には『みんなの潟学』(潟環境研究所編)を会場にて差し上げます。

■プログラム

第1部 基調講演

1

「これからの新潟の湿地群のあり方を展望する - 琵琶湖博物館の展開に学ぶ」

講師:嘉田由紀子 氏

前滋賀県知事、滋賀県立琵琶湖博物館元総括学芸員、農学博士

「諸外国における湿地復元の動向」

講師: 関 健志氏 公益財団法人日本生態系協会事務局長、

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会事務局長

第2部 パネルディスカッション 「みんなの潟学で"潟"を読み解く」

≪コーディネーター≫ 大熊 孝<河川工学>

≪パネリスト(当研究所研究員兼執筆者)≫ 井上信夫<魚類>/太田和宏<歴史>

澤口晋一<地形>/志賀 隆<水生植物>/高橋郁丸<民俗>/吉川夏樹<農業水利>

みんなの





な

地





この度、当研究所では、新潟を象徴する"潟"を読み解く本『みんなの潟学-越後平野における新たな地域学』 を出版しました。この本は、これまでの調査・研究の成果をもとに、地形、歴史、文化、民俗、動植物、利水な ど、多様な視点からふるさとの"潟"の姿を明らかにしたものです。

本シンポジウムでは、この本の出版を記念し、「水との共生」という思考の重要性をテーマに、今後の本市にお ける自然環境のあり方を展望します。

本シンポジウム参加者には『みんなの潟学』を会場にて差し上げます。

第1部 基調講演講師プロフィール

嘉田由紀子 氏:前滋賀県知事、滋賀県立琵琶湖博物館元総括学芸員、農学博士

利根川沿いの埼玉県生まれ。京都大学探検部員としてアフリカで水と環境の価値発見。ウイスコンシン大学大学院・京都大学大学 院修了。琵琶湖博物館学芸員・京都精華大学教授を経て、2006年公共事業の見直し・子育てを訴え滋賀県知事に。6つのダムの凍 結・中止。「流域治水条例」を全国で初めて制定。2014年勇退。「未来政治塾」塾長として若者・女性の政治参画を進める。

関 健志 氏:公益財団法人日本生態系協会事務局長、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会事務局長

(財)日本鳥類保護連盟研究員として、キングマヘンドラ自然保護財団 (ネパール)に2年間派遣される。その後、主任研究員とし て、主に野生鳥類、哺乳類の調査研究に従事したのち、平成3年に、サウジアラビア野生生物救護センターに派遣。平成4年より公益 財団法人日本牛熊系協会、平成16年より公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務局長を兼任し、環境保全全般に関する 業務に従事している。

パネルディスカッション出演者プロフィール



大熊 孝: 潟環境研究所所長

/新潟大学名誉教授

工学博士、専門は河川工学、土木史。川と人の 関係がどうあればいいかを研究しており、川の自然 環境、治水・利水のあり方を住民の立場を尊重し ながら考察している。



井上信夫:潟環境研究所協力研究員

/生物多様性保全ネットワーク新潟

専門は生物多様性・魚類。生物多様性保全ネッ トワーク新潟など、県内の環境NGOの役員を務 め、外来生物対策や希少生物保護活動、自然体験 活動を企画運営している。



太田和宏:潟環境研究所協力研究員 /地域教育コーディネーター

専門は歴史・建物。地域教育コーディネーターや赤 塚・佐潟歴史ガイド副会長を務めるほか、佐潟と歩 む赤塚の会で、佐潟の保全・イベント活動を続けなが ら、人と自然の共存の在り方を日々模索している。



澤口晋一:潟環境研究所客員研究員

/ 新潟国際情報大学教授

博士(地理学)。専門は自然地理学、地形学。高緯度極 地と高山という高い所ばかりをフィールドとしてきたが、数 年ほど前から越後平野の低地に降りて、特に新潟砂丘の 地形とその中にみられる潟や池の成因を調べている。



志賀 隆:潟環境研究所客員研究員

/ 新潟大学准教授

博士 (理学)、専門は植物分類学・保全生物学。 水辺の植物の多様性や生き様を調べる一方で、 日本の豊かな水辺の植生を残すための研究も進 める。



高橋郁丸:潟環境研究所協力研究員

/新潟県民俗学会理事

専門は民俗学。新潟県内で探訪活動を続け、祭 礼や口承伝承を調べている。現在は老若男女が親 しみを持つ 「妖怪 | の情報も調べている。



吉川夏樹:潟環境研究所客員研究員

新潟大学准教授

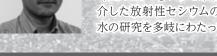
博士 (農学)、専門は農業水利学、農業土木学。 「田んぼダム」による水害抑制と水質改善、水田を 介した放射性セシウムの挙動など、農業に関わる 水の研究を多岐にわたって行う。



司会プロフィール

隅 杏奈:潟環境研究所事務局研究員

山口県出身。新潟市の自然環境や潟のある暮ら しに興味をもち移住。記録映像「潟の記憶」 (2015年度)の制作や「みんなの湯学」執筆・編



新潟市潟環境研究所プロフィール

本市には、地域の暮らしに根差した「里潟(さとかた)」ともいうべき個性豊かな潟が多く残っています。当研究所は、これらの潟と人と のより良い関係を探求し、潟の魅力や価値を再発見・再構築するため、2014 (平成26)年4月に発足しました。潟に関わる多くの皆さまと 連携しながら、自然環境や歴史、暮らし文化などについて、調査・研究を進めています。



新潟市内に点在する湖沼「潟」に関わる資料や情報をまとめたデジタル博物館です。 URL http://www.niigata-satokata.com/

